

未来のプロフェッショナルを育むために 大学教育に求められる変容とは？

企画者・司会者：村山史世（麻布大学 生命・環境科学部）

話題提供者：長岡素彦（一般社団法人 地域連携プラットフォーム）

話題提供者：早川 公（仁愛大学 人間学部）

話題提供者：石井雅章（神田外語大学 言語メディア教育研究センター）

指定討論者：村松陸雄（武蔵野大学 工学部）

指定討論者：陣内雄次（宇都宮大学 教育学部）

企画の概要

社会が求める専門家の育成で大学は命脈を保ってきた。しかし、人口減少社会の進行や AI の発達、また SDGs が提示する世界の諸課題は、未曾有の社会変化が生じる未来を予感させる。未来では専門家に求められる知識・技能・素養が現在とは異なるに違いない。資格も、専門教育のカリキュラム体系も、変容する可能性が高い。では未来の専門家育成のために、大学は何をすべきか。

本セッションでは、話題提供者と参加者が創発的な対話を通して未来のプロフェッショナルと大学教育のあり方を検討する「アンカンファレンス・プラットフォーム」を提供する。

SDGs・Society 5.0 の時代のプロフェッショナル (長岡素彦)

貧困、環境悪化をはじめとする地域・世界の持続不可能化の進展、今後の AI などによる社会・産業構造の変化が専門性や雇用ばかりでなく人の生き方にも影響を与えている。

このような状況を変えるために SDGs・Society 5.0 などの動きが起こっている。

このような時代には、専門性や能力をいかして業務を遂行し報酬を得ることができるというプロフェッショナルのコンセプトも変化してくる。

これらを、SDGs・ESD を推進している立場、及び、企業での開発(含む、組み込み技術)、営業、生産、情報などの業務や人事、業務コンサルティングの経験をもとにキャリア支援をしている立場から未来のプロフェッショナルや大学教育について述べる。また、大学での SDGs と ESD の研究についてもふれる。

「地域共創のプロフェッショナル」という可能態 の検討(早川公)

今年で終わりを迎える「平成」とは、不確定な未来の中で「ありうべき像」を求めてそれに奔走したプロジェクト期間であった。その典型例が、国内各地で地域の活力を取り戻そうとする事業、いわゆる地域づくりであろう。

個々の事業に固有の事情はあれども、この平成の間に地域づくりにおいて重要な概念としてある程度合意されているのが立場や利害関係の異なる様々なアクターが手を取り、あるいは互いの立場を超えて何かをつくる「共創」の理念である。

それでは、高等教育が地域社会に送り出す人材としての「地域共創のプロフェッショナル」とはどのようなかたちをとり得るのであるだろうか。本発表では発表者が関わったいくつかの地域づくりプロジェクトでの経験から話題提供を試みる。

<世界>への関わりへと誘う授業実践(石井雅章)

「プロフェッショナル」とは自身の知識・経験・スキル・態度等をつうじた<世界>への関わり方だと捉えると、未来のプロフェッショナルというテーマは、単なる職業の専門性についての議論ではなくなる。すなわち、どのような専門性を身につけるのかという観点からだけでなく、どのように<世界>を目指すのか、そしてその<世界>にどのように関わる存在でありたいのか、という観点からの議論が求められる。

このような問題提起は観念的になりがちだが、今回は論者がこれまで取り組んできた授業実践（休耕地活用、地域イノベーション、プログラミング等）の中に含意された<世界>への関わり方について話題提供を試みたい。